〝ニッキン　「金融専門新聞」
（第3種郵便物認可）　2004年（平成16年）6月4日（金曜日）

リレバン最前線 ▽1△

豊橋信金

創業支援で地元産業を活性化

〝産学官〟の橋渡し

【名古屋】豊橋信用金庫（水野勲理事長）は、地元の豊橋技術科学大、豊橋市、豊橋商工会議所と一体となって、組織をあげて〝産学官〟連携による新事業創出に積極的に取り組み、地元活性化に寄与している。「情報と情報の橋渡し役に徹する」（吉川一弘専務）との方針の下、5社・2億円の融資実行を含め、現在10社に対する支援・協力を進めている。

豊橋市は、文部科学省が呼びかける「都市エリア産学連携促進事業」の重点地区。経済産業省の「産業クラスター構想」の指定企業も多い。

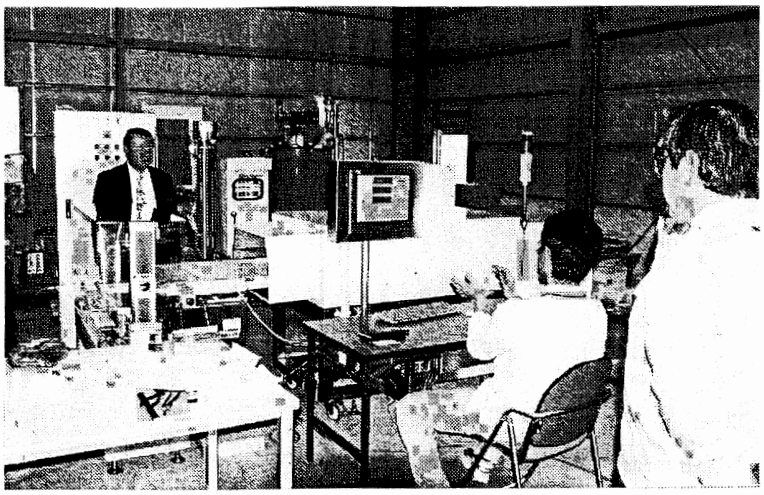
02年4月、リレバンに先駆けて業務部内に「新事業支援課」を設立。豊橋技科大指定の「産学連携コーディネーター」に宮川直樹課長（38歳）が認定されたほか、市と商工会議所を中心に設立された「まちなか活性化株式会社」に1人が出向、地域経済シンクタンクの「東三河地域研究センター」にも職員を派遣。産学官連携を信金あげての活動にまで成長させた。

これまでに融資を実行した5社は、支店からの情報やセンターからの持ち込み。主な実績では、産業クラスターの「地域新生コンソーシアム事業」の管理法人立ち上げ（02年5月）や、同大学が得意とするセンサー開発をとりまとめる管理法人設置（同7月）に計1億3千万円を融資。03年10月にはアドバンスフードテック社からの依頼で、産学連携による補助金などのつなぎ融資などを提案。同大学と、超伝導を利用した食肉異物検査機の共同開発に成功したため、1千万円融資した。商品化の段階では運転資金融資も検討する。

04年3月には、新素材「歯材用チタン合金」の精密鋳型開発で、A社をバックアップした。同社は「中小企業経営革新支援法」の補助金申請が難しかったため、共同で愛知県に申請。認可されれば制度融資なども提案していく方針。

そのほか、商品化となれば資金需要が見込めるとして、「がん手術中の新型組織診断顕微鏡」や「廃食用油による発電事業」など、現在、4社で案件が進行中。

吉川専務は「大学での研究を地元産業発展に寄与させるため、今後も協力体制を敷いていく」と意欲を見せる。また小林俊郎・豊橋技科大副学長も「研究を実用化するまでの道のりは遠い。経営計画策定でも金融機関からの助言は大きい」と、さらなる支援を期待する。



新開発商品の説明を見守るアドバンスフードテックの鈴木周一社長（左側）